分　野　：　(3) 気管支ぜん息・COPDの動向等に関する調査研究
① 気管支ぜん息の動向等

(3)－①－ⅱ)

申　請　課　題　名　：　ⅱ)表現型別のぜん息増悪因子の同定と長期予後の解析
－非2型炎症を有するぜん息病態の検討を含めて－

調査研究代表者氏名：長　瀬　洋　之

1　評価項目

5点：大変優れている（A判定）　4点：優れている（B判定）　3点：普通（C判定）　2点：やや劣っている（D判定）　1点：劣っている（E判定）

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	2人	4人	0人	0人	0人	4.33
(3) 研究計画の妥当性	2人	4人	0人	0人	0人	4.33
個別評価（第3評価）：(2)(3)の平均						4.33
(6) 総合評価（第2評価）	3人	3人	0人	0人	0人	4.50
全体評価（第1評価）：(2)(3)(6)の平均						4.39

2　記述評価

・進捗状況は良好である。
・好酸球の解釈は慎重をきしてもらいたい。

・ぜん息の表現型として2型と非2型が固定されたものかどうかの議論は必ずしも結論に至っていないと考えられる。その点で本研究の知見で興味深いのは、好酸球が非2型では増悪に逆の寄与を示唆していることの解釈で、非2型の状態での増悪が減少するとベースにある好酸球が増加している2型が表現されている可能性を示唆する結果ではないかと考えた。しかし、本研究結果からは、二つの病型に互換性があってもなくても、各時相での判断には影響しないことが明らかである。そして本研究がその時の病型に合わせた治療への道筋を提示する上で役立つ方向に進むことが期待できると思う。

・研究の進展を期待する。

・研究が順調に進められている。
・表現型別にバイオマーカー設定をすすめている。Tenascin-c、IL－6、CRP、TGF－βなど。
・本研究から、分子標的薬の使用の種類を含めた使用基準について、どのように考えているか、またこの点について今後どのように、進めたいと考えているのか。

・可能であれば新型コロナウイルス感染との関係も検証してほしい。

・目標達成に向けて、適切な解析が行われていると評価する。結果の頑健性を考慮して最終的なまとめをしてほしい。